

寒河江市学校施設整備計画改定（案）説明会 質疑応答

会場：西部地区公民館 大会議室

日時：令和5年10月3日（火）19時00分から20時25分

参加人数：32名

出席者：教育長

学校教育課長（兼）学校再編整備室長

学校再編整備室 室長補佐

学校再編整備室 係長

（発言者A）

さきほど説明の中で、スクールバスの関係ですが、西部地区の小学校についてはスクールバス検討と書いてありますが、小学校の場合4キロとありまして、スクールバスは検討していないのかなと。基本4キロ以内だと徒歩なのかなと聞きとったのですが、もう少し詳しく説明をお願いします。

（教育長）

中学校では自転車で夏は通学できますので、現在も4キロくらいで通学しているお子さんがいるわけですが、小学校は徒歩ですので、もっと短い距離でもスクールバスを考えていきたいと思っております。高松小のところに新しい学校を建設した場合、醍醐地区や白岩地区でもスクールバスの利用も考えていきたいと思えます。川を渡って通学するなどありますので、子どもたちの安全面も考慮しながら、距離で一律に設定するのではなく、これまでの通学等も考えながらやっていきたいと思えます。

（学校教育課長）

よろしいでしょうか。その他ございますか。

（発言者A）

もう1点ですが、中学校の通学ですが、中学校の場合は自転車通学がほとんどになるかと思えます。さらにスクールバスということで考えておられるということで、例えば、市内循環バスを通学路のところに走らせる方法もあるのではないかと考えているので、今後検討していただければと思えます

（教育長）

ありがとうございます。検討してきたいと思えます。

（学校教育課長）

その他ございますか。

（発言者B）

以前の2段階から改定（案）では1段階で計画をされているようですが、高松

小、醍醐小、白岩小を1校にして、その後、三泉小、西根小を統合する計画をされていますが、さきほど中学校の案にもありましたが、10年後20年後の生徒数を見越して中学校に関しては1校にする、小学校に関しては、この資料にもありますが、高松小、醍醐小、白岩小に関しては10年後20年後を考えるとかなり人口が減ると思います。そういったところを都市計画とか今後あるかわからないですが、今の現状、三泉小と西根小の人数と高松小、醍醐小、白岩小の人数を合わせたときに、三泉小と西根小の方が圧倒的に多いかと思うのですが、高松小、醍醐小、白岩小を統合して新校舎を建てるメリットといたしますか、そういったことをどうお考えになって、2校を新校舎として建設することになったのかお聞きしたいです。

(教育長)

現在の計画では白岩小、高松小、醍醐小を統合、それから西根小、三泉小を統合、そのあとその5校を統合する案として考えていたわけです。こうしたのは複式学級の解消をなるべく早めにとということで令和8年度に2校と3校を統合して、その後、クラス替えができる学年2クラスくらいあった方がいいということで、この2校と3校を統合した学校を再度統合するという計画です。西根小は今後も200人くらいの人数になりますので、学年2クラスくらいの学校になっていくということで計画しました。ただし、説明会の中で、小学生がスクールバスで大きいところに通うとだんだんと地域との結びつきが少なくなっていくのではないかというご意見もいただきました。特に小学生は、まだ小さいわけですので、地域の中で学ぶことが多いわけですから。統合しても学べることはあると思うのですが、あまり広い範囲で統合していくとそうしたことが難しくなってくるのではないかとか、通学の問題とかいろいろなご意見をいただきました。そうしたことを考えまして、この西部地区に小学校を1校新築して、2クラスにはなりません、学年1クラスになるとは思います。そういった形で学校を残すということです。

中学校は、子どもたちも発達段階といたしますか、成長の度合いが高いわけですので、そうした中で寒河江市全体を学区としていろいろな見方を広げながら、多くの子どもたちとお互いに切磋琢磨しながら育っていくのが力になると考えましてこのような改定案としたところです。

(発言者B)

わかりました。ぜひ、他の地区を見ても、小学校の築年数が浅くても統合になってしまう、寒河江市以外でも多いと思います。そういった学校を次の利用場所に小学校、中学校に利用していくのはいいと思うのですが、今回の統合で高松小、醍醐小、白岩小を統合して、そういった地域に根差した観点からはすごくいいと思うのですが、そこにあわせた団地の建設とか人口をよせるような対策を同時進行で進めないと、ただ人口が減って行って、高松小学校が新しいのにまた統合しなければならぬとなると意味合いが変わってくるのかと思いますし、意味がなくなってしまうので、並行して進めていただければと思います。

(教育長)

ありがとうございます。

(発言者 C)

改定案がでて、今回5回くらい説明してすんなり通るという形で変更はないということですよ。ここで中学校2校案をいかに賛成しようが、中学校の2校案はもう出てこないということによろしいでしょうか。

(教育長)

中学校の1校案、2校案につきましては、さきほどの説明の中でも申し上げたとおり、いろいろ検討しまして、教育委員会として1校案でいきたいということで、その理由についてもご説明させていただいた状況でございます。

(発言者 C)

1年くらい前に説明を聞いたときに、国の方針として500名程度がベターという話が頭の中に残っているのですが、国のこれぐらいがいい案はありましたよね。確認します。

(教育長)

国の標準的な学級数は、12から18学級で、それですと500人程度の人数になると思います。

(発言者 C)

その説明が消えているということは、それを無視してやるということなのでしょうか。

(教育長)

無視してということではなく、さきほどのグラフ、このグラフで見ていただくと2校にした場合、青い方が陵東中と陵西中をあわせた人数です。令和17年度までの人数にしてあるのは、令和4年度に生まれたお子さんが令和17年に中学校に入学しますので、現在の各地区に住んでいる子どもさんの数をもとに推定しております。こうして見ますと陵東中、陵西中の人数が減っております、319人と各学年3から4クラスくらいになるのですが、これがまた減っていくと各学年3クラス、もう少し減ると2クラスになることが想定されます。そうしたことを考えたときに、中学校1校で開校時は954名と多いですが、5年後には800人くらいになる見込みです。そのあとも減っていくと700人代とか。例えば、昨年度生まれた子どもさんが、令和17年度に中学校1年生になるのですが、242名なんですね。そういったことを考えたときに、寒河江市全体でどんどん減っていく、2校にすると片方の中学校の学級数がどんどん減ることなども考えまして、1校案として教育委員会としては考えたところです。

(発言者 C)

わかりました。学区の見直しがあってもいいのかなと思っていたので、今の小学校の学区のまますんなりではなく、割合を変えてもいいのかなという考えをもっておりまして、半分にして500、500でいいのかなと思います。

資源の確保とありましたが、資源というのは生徒数ですか、経費のことでしょうか。何を資源と言っているのかわからなかったのですが。

(教育長)

教育資源の集中のことですか。

(発言者 C)

はい。

(教育長)

そういった財政面のことも含めて使っております。

(発言者 C)

最後にします。スクールバスの関係で、前はタクシーなり企業なりの応援をもらいながらやっていくという文言がありましたが、今回はその文言が全然出てこないのですが、これはなしでスクールバスを増やして、スクールバス1本化になったのでしょうか。

(教育長)

基本はスクールバスですが、子どもたちが乗るルートと生徒数などを考えてタクシー等も活用してきたいと考えております。

(学校教育課長)

その他ございますか。

(発言者 D)

小学校再編についてですが、最初の案だとつなぎということで高松小、醍醐小、白岩小を醍醐小に統合、西根小、三泉小を西根小に統合して、新校舎ということで、それが改定案だと高松小、醍醐小、白岩小を統合して高松小に新校舎となるのですが、他の学校、例えば、西根小、高松小は築50年経っているので建替えはわかる話なのですが、醍醐小については築20年でまだまだ使えるのかなと思います。中学校の建設には費用負担の話がでていっている中で、まだ使える校舎がある、醍醐小にしてくださいというわけではなく、高松につくることを反対するわけではないですが、使える校舎を検討した上で新しく建設した方がいいという話になったのか、さきほどの方の話があった中で、今後の西部地区の人口が減ってきたら、統合の話が再燃してくるかと思うのですが、そういったときに新しい校舎を作ったのという話になると思うので、そのへんはどうぞ検討されたのかお聞きしたかったです。

(教育長)

今日の次第の裏面に各小中学校の築年数を載せております。当初、醍醐小学校は今年で20年ということで新しい学校ですので、醍醐小の校舎を使って令和8年に統合するという計画でした。その後、2段階統合をやめるということを検討したときに、予算の関係等もありまして、複数の学校を同時に建設するのは大変です。中学校を建設して、3年あけて、西根小と三泉小の統合校の建設を3年くらいあけています。そうしたときに、高松小、醍醐小、白岩小の統合校が予定としては令和15年、醍醐小はその時点で築30年となりますので、だいぶ年数も重なってくる。また、子どもたちの地区の人数等も考えると高松地区が一番多いわけで、通学の問題などを総合的に考えて、高松小学校の敷地に新築ということで計画を立てました。

また、醍醐小については資料にも載せておりますが、決定ではありませんが高松小校舎に楯岡特別支援学校寒河江校が入っております。この寒河江校は、平成26年に開校しまして、西村山地区にも特別支援学校をという地域のご希望もあり、開校に至りました。最初は2名でしたが、現在は13名のお子さんが学んでいます。高松小と一緒に活動で教室も狭いということもあり、高松小学校に新しい統合校を作った場合、築年数がある程度浅い醍醐小学校を活用して特別支援学校とすることで、西村山地域から通学しているお子さんがほとんどなので、河北町や西川町からの通いもスムーズということもありますので、そういった方向で県と協議している状況です。

(発言者D)

もう1点、この資料からいくと、中学校1校にする理由の整理をされているのですが、2校にしたときのメリット、デメリットをどのように比較したのか見えてこない。どの程度そのあたりを検討したのかという資料があった方がわかりやすいと思います。財源の部分に関しても陵南中を建替え前提と考えておられますが、再編したうえでの建替えとなれば単純な建替えではなくなるので、補助対象になるならない議論もされていると思いますが、その結果こういう結果になりましたというような見せ方をした方が比較しやすいのかなと思います。

(教育長)

今日の資料は、1校案とした理由としてあげておりますので、今ご指摘のとおり2校案のメリットはこの資料にはのせておりませんが、2校案は2校案でいい点があるわけです。例えば、各学年4クラス、5クラスだといろんな面で動きやすいこともありますし、例えば学年の先生が4クラスくらいだと学年全クラスの社会科の授業をもてたりするなどいい点もあるわけですが、さきほどのグラフのように3クラス、2クラスになりますと専門の先生がいなくなったりする。現段階で4、5クラスでメリットがないというわけではなく、このまま3クラス、2クラスになっていった場合、デメリットが多くなることも判断材料です。

改築関係につきましては、今の国の施策では統合した場合の補助割合がありまして、単純な改築ですと国の補助がなかなか受けられないということで、ここにあるような金額になってしまうということです。

(発言者D)

ありがとうございます。

(学校教育課長)

その他ございますか。

(発言者E)

小学校の保護者です。小学校の統合の計画は、陵東中の跡地、高松小学校の敷地となって事業に対するイメージがつきやすく、あとは細かい点を調整するだけなかなと思うのですが、それに先だって、中学校の統合について、用地選定についてイメージがつきにくいと思うのですが、何か決まっていることがあればお伺いしたいのですが。

(学校教育課長)

いまの計画では昨年度から用地選定に入るようになっておりましたが、計画の見直しを行っておりますのでストップしております。用地選定は、今回の改定は12月に策定する予定ですので、そこから動いていきたいと考えております。

(発言者F)

小学校の保護者です。統合の話だといつも高松小、醍醐小、白岩小がセットで動いているのですが、来年の1年生女の子1人とか、今の1年生も2人とか、醍醐小学校のお子さんは高松小学校で就学児検診を受けるのですが、そのあとに醍醐小に行ってオリエンテーションという形をとったときに、友達いなくなるから行きたくないとその場でないいたお子さんの姿を覚えていて、白岩小に田代小、幸生小のお子さんがいったように、醍醐小の保護者の方がどう思うかわからないですが、さきに醍醐小と高松小のお子さんを一緒にするとか、子どもたちの過ごす生活に目を向けた統合のしかたは視野にないのかいつも思っているのですが、保護者の方からそのあたりはご意見でたりしてはいないのでしょうか。

(教育長)

最初の計画ですとそういったこともありまして、醍醐小学校は1、2年生が複式、3、4年生が複式、5、6年生が複式という状況になっています。複式の早期解消ということで令和8年度に統合と計画したわけですが、そのあと中学校の統合となると小学校でも統合を経験して、例えば、ここで言いますと陵西中に入って、そのあとまた中学校の統合を経験するというように、同じお子さんが統合を2回経験する子がでてくるわけです。中学校の統合が2年遅れるとそこに該当する学年がずれてきますが、そうしたことが子どもたちや保護者の負担が大きいというご意見がありまして、そうしたことをまず解消することを考えたわけです。そうした場合に、小学校を先に統合すると、小学校でも中学校でも統合を経験する子が出てきますので、今回は中学校の統合を先にと考えたところ です。その分、複式学級の解消が遅れてしまうという面はでてくると思います。

(学校教育課長)

その他ございますか。

(発言者 G)

この問題考える場合に、人口減少、近所でも空き家になっている状態を考えて行くと、人口減少が大きい問題だと思います。それを実感していく必要があると思います。もう一つ、世の中が本当に変わってきている。私もパソコンやっていますが、スマホなどもありついていけない。人口減少と時代変化というものを子どもたちにどう保障していくかを考えると、昨年1年間、いろいろ説明会等を含んでよく練られたのかなと感じます。そんなことを踏まえながら4点ほど申し上げたいと思います。

1つは、これまでの学校、これからの学校、方向転換といいますが、これまでの学校は、場所と子どもたちに関わる人が少なかった、先生方が少なかった、場所がなかった、ほとんど空き教室がないので様々な子どもがいた場合に対処できなかった。それから、施設設備、語弊があるかと思いますが、時代にあわない施設整備もあったのかな。そんな意味では、中学校1校ということで人と場所、施設設備ですね、宇宙のことを考えている時代に、プラネタリウムとか本物を見せるような場所、施設を十分踏まえていただきたいと思います。

2点目、準備委員会ですが、いろいろ練られていると思うのですが、2点ほど足りないと思うのは、1つはなるべく早めに3中学校のPTA会長、副会長の連絡協議会みたいなものを準備委員会とは別にもっていただいて、具体的に子どもの親として、地域の学校づくりをどうしていくか、PTA連絡協議会のようなものを可能な限り開いていただいたらどうか。もう1つは、さきほどもありましたが、この説明を聞くと、子どもたちのからみあいをどうしていくのか、統合前の年度になって統合になったんだよという受け取り方をしてしまいそうですが、その前には、5年くらい前には、合同訓練とか、合同行事とか、運動会もそれぞれの学校ではきびしくなっておりますので、合同運動会とか子どもたちのからみなんかも準備委員会にいらしていただいたらどうだろうかと思います。

3点目は、高松地区に小学校を新築してくださるのは非常にありがたいですが、しかし、人口減少を考えて本当に大丈夫なのか。ぜひここにまちづくりの視点、寒河江市づくりの視点から公共施設、場合によっては統合中学校とかあわせてやっていただかないと、高松、醍醐、白岩だけでは人口減少、生徒数の減少は目に見えているのではないかと思います。それぞれの課で検討していただき、高松地区には老人ホームもない。こういったことも含めて、まちづくりの視点から検討いただきたい。これの裏付けなしには高松小の新築も他の方からもありましたが、何年か経って統合と、いらなくなってくる可能性もなきにしもあらずで、寒河江市をどう作っていくかということから、様々なことを考えていただきたい。

最後にですが、いろいろみなさんからのご意見、すばらしいものがあるのではないかと思います。通学、スクールバスの活用、循環バスの活用はすごい提案だと思うので、あわせてやっていただきたいと思います。跡地利用も今のうちから計画的にやっていただきたいと思います。今は、歴史資料の展示場所もなく困

って、西川町にも素晴らしい場所ができておりますので、歴史館とか美術館とか図書館とかあわせて進めていただければありがたいと思います。これからもっと大変でしょうけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

(教育長)

ありがとうございます。1点目について、今の学校は使いにくいんですね。子どもたちとじっくり話をしたり、保護者の方と話したりする場所がなかなかなかったりするので、そうしたスペース、場所、今考えているのは中学校でも地域との関わりがありますし、コミュニティ・スクールも各中学校でも学校運営協議会が設置されて、地域とのつながりが強くなっていまして、地域の方が集える、話ができたり、地域学習するときに学校の先生と相談できたりするスペースがあった方がいいなと思います。例えば、この前新聞でも報道されていましたが、中学校で空き教室をオフィスとして使っているところもあります。そこに子どもたちがきて、仕事の様子を見たり、オフィスとして使っている方はコミュニティ・スクールの委員になっているので、子どもたちが身近に大人の仕事をみられるとか話を聞けるとかそういった体験もいいなと思うのですが、そうしたスペースなんかも中学校に設けていければと思っているところです。

2点目の事前の準備はその通りだと思います。子どもたちが、中学校は生徒会がしっかりしておりますので、こういったことを目指していこうという取り組みは統合の前の年からではなく、その前からそれぞれの伝統をいかしながら、寒河江で1つになったときにこういうことをやってみたいとか話し合う場、そしてそれをフォローする場とか、PTAの役員の方の話し合いの場が大事であると思います。

3点目のまちづくりは、さきほどからでていきますように、新しい1校作っても子どもたちが減って行って、複式学級になってしまうのでは困りますので、まちづくりの観点も大事にしながら、そういったご意見もでていくことを市の担当部署もありますので、そうしたところにも伝えていきたいと思います。ありがとうございます。

(学校教育課長)

その他いらっしゃいますか。

(発言者H)

西部地区に小学校を残していただき大変ありがたいと思います。さきほどの話にありましたが、小学校の統合については複式解消が大事だということで統合がでてきているわけですが、さきほどの方から子ども実態に応じてやってもらえればということで、そういう風に複式を早急に解消する必要はないのかどうか。ほかの学校と同じように教育するとすれば、小学校を統合して中学校のときに統合する2回の統合を経験することと、計画的にやって、それを知らせながら段階的にいろいろな対策をとって、早期に解消することはできないものか。できれば、できるだけ早い段階で当初の計画通りの年数で西部地区の統合ができないものか再度ご検討いただければと思ったところです。

(教育長)

何を優先させるかということだと思います。昨年度の説明会では2回の統合を経験するのは子どもにとっても保護者にとって大変なので避けてほしいという声がとても強かったわけです。そうしたことの解消ということで、複式の期間は少し長くなりますが、そういったことで改定案をお示ししたところです。1つのご意見としてお伺いしておきたいと思います。

(学校教育課長)

その他いらっしゃいますか。

(発言者1)

質問というよりは希望なのですが、小学生の保護者です。中学校に自転車で通えない距離はスクールバス使うのであれば、西の地域につくってもらって、柴橋駅、羽前高松駅、左沢線の通学も考えてもらったらいいのかなと思います。利用者が少ないですし、中学生から利用すると使う意識も強くなるかなと思います。西側が大きく土地をとれるのではないかと思います。

中学校では、部活自由と聞かされているのと、地域のクラブ、これからの在り方も変わる。今までみたいに1学校1部活1チームではない中学校を目指していると思うのですが、そうなるべくとどこでやるのか、部活のあり方が変わっていると思うので、いろんなチームが学校の近くで活動できる運動施設を併設した中学校を検討していただきたいと思います。スケートボード場があるとか、ボルダリングとか新しいスポーツとかができる施設とかできる場所とか部活のことと再編もからめていただければと思います。

(教育長)

通学に関しては、どこに学校を作るかによっては左沢線の活用も選択肢にはいってくると思います。場所はこれから選定していくわけですが、そうしたことも考えながらだと思います。

部活動に関わってですが、人数も多くなりますので、子どもたちがいろんな種目で活動できるような施設にしていきたいと思っております。部活動改革が進んでおりまして、土日は基本的には部活動は行わないということで国全体で部活動改革を進めております。土日は、子どもたちが自分のやりたい競技や文化活動を選択してやる。例えば、バスケ部に入っている子は、平日は学校でバスケの練習をしますが、土曜日とかももっとうまくなりたいという場合にはクラブに入ってバスケをやる。平日はバスケをやるが、テニスにも興味があるので、土曜日はテニスのクラブでやる。または、土日は自分の好きなことをやる。いろんな選択肢が増えてくると思います。教育委員会でもスポ少の代表の方や、いろんな団体の方にきてもらって、そうした土日に子どもたちの活動ができるような地域クラブを作りたいということで呼びかけております。いくつかの競技においては、そういう方法で動こうという動きをしている競技もあります。そうしたことも含めて子どもたちが学校で活動することもあるでしょうし、地域の別な場所であるということもあろうと思いますので、なるべく好きなものを選択してや

れるような環境を作っていきたいと考えているところです。

(学校教育課長)

その他ございますか。

(発言者 J)

以前から気になっていたのですが、今日も同じような資料が提示されたのですが、統合校舎の部分については国の補助が得られて、単純な改築校舎には国の補助が得られないという説明ですが、前から同じように説明されている。外部有識者会議のときにも同じように説明されている。ところが根拠となる法律、義務教育学校等の施設費の国庫負担等に関する法律第3条ですが、統合校舎にはたしかに1/2なんです。ところが、改築校舎には1/3です。それでいくとさきほど説明された資料で、陵南中学校の改築のところで、国の補助が非常に少なく計算されているのですが、これは正しいのですか。むしろ国の補助金の運営基準からすると一番最初に議論になるのは、事業の必要性です。次に統合する校舎なり、改築する校舎なりの 技術的确实性です。そして、地元が了解しているか、最後に経済性ですよ。そういうことを全部チェックして補助採択されるはずで。そこまで検討されていますか。

それともう1つ、小学校の統合、中学校統合の問題のときに、これまでの説明会の中でも、小学校も中学校も地域と密着して学校が存続してきたという意見が相当でていたと思います。今回、説明を聞いた流れの中では、小学校が無くなる地区がある。そのフォローについて1つも説明されていない。今まで小学校の校庭の草取りや学校でいろんなイベントをやったり、いろんな形で地域の活動と学校教育は一体でやられてきたはずで。そのことについて、今後どうなるのか、学校が無くなれば地域の灯が消えるという意見もあったはずで。そういったことについて、どういう風に検討されたのか、市の庁舎の中で広範囲で検討されたと言っていますが、広範囲に検討された内容について、今日いただいた資料にはどこに説明がありますか。お答えいただきたいと思います。

(学校教育課長)

補助金ですが、統合には該当しますが、その中でも教室不足で改築する場合は該当しますが、古いから建て替えるのは該当せず、生徒数が増えて教室が不足して改築する場合は該当すると理解しております。陵南中の場合は、古いので建替えるので、補助金は該当しないと思っております。

(教育長)

統合して小学校が無くなる地域へのフォローということですが、今日の説明資料にはありませんでしたが、例えば、こちらの地区でいうと各地区に伝統芸能等があるわけですが、そうしたことを統合の小学校の中でどんな形で続けていくのかということも検討していくのかなと思います。例えば、西川町でも小学校を1校に統合したときに、それぞれ各地区にイベントだったり、伝統的なものがあったわけですが、そうしたものをどういう形で子どもたちが受け継いでいく

か、これは学校が関わるとか、これは地域にお任せしようとかそういったことをそれぞれ検討しながら対応していきたいと考えております。

(学校教育課長)

その他いらっしゃいますか。以上をもちまして質疑応答を終了いたします。